



# クマとの共存を図り、人身被害を防ぐ



## クマとの共存を図る

クマとの共存を図る

「ベアドッグ」導入のご提案



## 持続可能な対策

人もクマも傷つけない持続可能な対策  
アドルブマネージメントサービス株式会社

酪農学園大学・野生動物生態学研究室



# 現状の課題：駆除一辺倒のリスク



## クマ被害の深刻化

- ・ 人里への頻繁な出没と人身被害の多発
- ・ 現状は原因分析なき「大量駆除」が中心



## 駆除による生態系・人間社会への駆除の影響

- ・ 頂点捕食者の絶滅＝森林劣化、水源喪失(ニホンオオカミの二の舞)
- ・ 山崩れや土石流など、結果として人の命を脅かす
- ・ 「クマを救うこと」は「人を守ること」である



# 解決策：ベアドッグの導入 (カレリアン・ベア・ドッグ)



## ベアドッグとは

### ■ベアドッグとは

- ・クマの匂いを察知し、吠えて森の奥へ追い払う訓練を受けた犬
- ・人を守り、クマも傷つけずに「棲み分け」を実現



## 導入実績と優れた能力

### ■導入実績

- ・長野県軽井沢町(ピッキオ)での活動後、数年間にわたり人身被害ゼロ



## 犬種の特徴

### ■犬種の特徴

- ・フィンランド原産、白黒のツートンカラー
- ・1頭で一般犬5頭分の仕事をこなす優秀な能力



# カレリアン・ベア・ドッグ

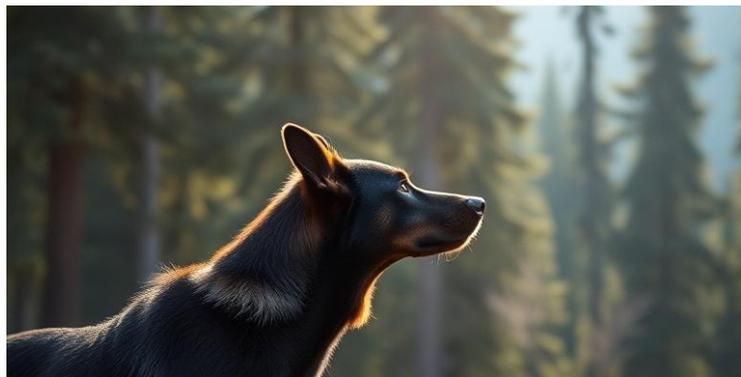
## Karelian Bear Dog



- 古くからヒグマ猟の場で活躍
- ロシアとフィンランドの国境地帯を原産
- 体重18~29kgの中型犬
- 白と黒のツートンカラーが特徴的。
- 顔にはアライグマのような黒いマスク模様があって、とってもキュート、人間には脅威を与えない
- クマに対して、決してひるむことはない
- 後ずさりをしない。絶えず向かっていき、クマを追い込んでいく
- ベアドッグとして最も相応しい



# ベアドッグの3つの特徴



## 早期警戒と追い込み能力

- ・優れた嗅覚で遠方のクマを発見し、ハンドラーにクマの存在を知らせる
- ・クマは逃げるものを餌(敵)として認識
- ・クマに対して決して背を向けない
- ・激しく吠え立てクマを追い込んでいく



## 追跡調査

- ・クマの残り香から移動ルートをトレース
- ・現在地を特定しハンドラーに伝達
- ・「どこへ行ったか」「まだ近くにいるか」等の情報提供をハンドラーに知らせる



## 侵入防止(マーキング)

- ・人間社会との境界線を引く
- ・犬の匂いでテリトリーを示し、クマに危険地帯と認識させる



# ハンドラーの養成が退職自衛官の再就職先の道を拓く



**指導体制** 株式会社ピッキオ（長野県軽井沢町）の活動  
<https://picchio.co.jp/about/bear/>

- ・対策担当チーフ: 在フィンランド日本国大使館に協力要請をし、現地のハンドラーを雇用して指導体制を構築する
- ・連携: 自衛隊地方協力本部  
一般社団法人自衛隊援護協会



**ハンドラーの採用** 陸上自衛隊  
レンジャー教育

- ・対象: 陸上自衛隊「レンジャー教育」修了の退職者
- ・理由: 山中をクマの速度で移動できる体力と規律が必要



**社会的意義**

- ・地方における元自衛官のセカンドキャリア支援
- ・国策としての自衛官待遇改善に寄与



# 国内初の安定的繁殖システムの確立



## 背景

- ・輸入頼みでは継続的な育成が困難
- ・成犬の輸入コストは莫大
- ・冷凍精子の輸入は扱いやすく安価



## 弊社の強み

- ・繁殖担当: 諏訪義典(取締役/元北海道盲導犬協会)繁殖の第一人者
- ・30年にわたる盲導犬育成と人工授精(凍結精子)の技術を活用
- ・フィンランド本国との連携ネットワーク



繁殖担当: 諏訪獣医師とともに

## 設備

- ・北海道恵庭市に800坪の繁殖・育成拠点を確保

## 課題

- ・建物の整備資金の不足
- ・運営活動費の不足



# 今後の展開とビジネスモデル



## 事業モデル

- ・「ベアドッグ」+「訓練を受けたハンドラー」をセットで自治体に派遣
- ・派遣先の各自治体との業務提携
- ・既に複数自治体より問い合わせあり



## 展望

- ・輸入に頼らず、日本に適したベアドッグを国内供給
- ・人と自然が共生できる安全な地域社会の実現
- ・ベアドッグとしての能力寿命は限られている
- ・活躍後は各地の農家などに譲渡、地域犬として余生を過ごす